



2024年2月26日

各位

会社名 株式会社 REVOLUTION
代表者の 代表取締役社長 新藤弘章
役職氏名 (コード番号 8894 東証スタンダード)
問合せ先 管理本部本部長 津野浩志
電話番号 03-6627-3487

2024年10月期第2四半期累計期間および通期の業績予想の修正

当社は、2024年1月29日定時株主総会で新たな体制となり、「自社革命」^{※1}を進めると同時に当社グループの事業計画について見直しを進めてまいりました。その結果、2023年12月15日に公表した2024年10月期第2四半期累計期間及び2024年10月期通期業績予想をそれぞれ修正することといたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2024年10月期第2四半期累計期間（2023年11月1日～2024年4月30日）業績予想の修正について

（1）連結業績

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	458	△169	△172	△175	△0.27
今回修正予想（B）	394	△167	△162	△162	△0.25
増減額（B－A）	△64	2	10	13	0.02
増減率（％）	△14.0	-	-	-	-
（参考）前期実績 （2023年10月期第2四半期）	354	△167	△164	△166	△0.42

（2）個別業績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想（A）	442	△175	△165	△165	△0.26
今回修正予想（B）	388	△169	△163	△162	△0.25
増減額（B－A）	△54	6	2	3	0.01
増減率（％）	△12.2	-	-	-	-
（参考）前期実績 （2023年10月期第2四半期）	354	△162	△160	△162	△0.41

¹ 当社ホームページのIRリリース情報 2024年2月16日TOPメッセージ「自社革命」を参照ください。

(3) 修正の理由

売上高については、本開示時点の絶景 J A P A N物件の契約状況（13 物件中 7 件契約済み、1 件申込）を鑑み、前回発表予想を下回る見込みとなりました。

営業利益については、売上高が予想を下回ったものの、徹底したコスト削減を進めたことにより販管費全体の改善が見受けられ、前回予想を若干ではありますが上回る見込みとなりました。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益並びに当期純利益については、営業利益と同様の理由により前回予想を上回る見込みとなりました。なお、連結業績及び個別業績における差異は連結子会社の為替差損見直しによるものです。

2. 2024 年 10 月期通期（2023 年 11 月 1 日～2024 年 10 月 31 日）業績予想の修正について

(1) 連結業績

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,752	△182	△192	△198	△0.31
今回修正予想 (B)	5,021	373	388	373	0.58
増減額 (B - A)	3,269	555	580	571	0.89
増減率 (%)	186.6	-	-	-	-
(参考) 前期実績 (2023 年 10 月期)	2,403	△415	△408	△372	△0.84

(2) 個別業績

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,713	△198	△183	△183	△0.28
今回修正予想 (B)	5,011	370	386	373	0.58
増減額 (B - A)	3,298	568	569	556	0.86
増減率 (%)	192.5	-	-	-	-
(参考) 前期実績 (2023 年 10 月期)	2,397	△401	△394	△407	△0.92

(3) 修正の理由

売上高については、仕入れた物件の売却、現在交渉中の仲介案件や仕入れ案件等を鑑みて、前回予想を上回る見込みとなりました。具体的には、東京都内を中心として収益物件を確保し、収益性の改善等により商品化する計画です。その他、東京都内案件の仲介による手数料収入等の獲得を計画しております。

営業利益については、売上高が前回予想を上回ること、徹底したコスト削減効果により、当初予想を上回る見込みです。

経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益並びに当期純利益については、営業利益と同様の理由により前回予想を上回る予定です。なお、連結業績及び個別業績における差異は連結子会社の為替差損見直しによるものです。

3. 修正理由の補足

2023年12月15日付け「2023年10月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表しましたとおり、前連結会計年度は大幅な赤字を計上するに至り、早急な経営体制の立て直しが必要な状況でした。本件開示に至るまで、経営陣を刷新し新たな経営体制を整え、前経営陣による非効率的な販管費の支出を止め、大幅にコスト削減を実現したこと等により効率的な企業運営に向けた体制は整いつつある状況まで改善することができました。

一方で、売上の核となる不動産事業ですが、前経営陣の時代に仕入れた絶景JAPANの半数以上は契約・申込を終えており、期末までには売却する計画です。仕入れに関しては、2024年1月29日付け「販売用不動産の取得及び資金の借入に関するお知らせ」で公表しました案件に加え、東京都内一等地の仲介案件、仕入れ案件等、これまでの当社に無い規模の案件について交渉を進めており、これらを今期中に実現させて黒字計上を目指す計画です。

以上

(業績見通しに関する留意事項)

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。